

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 8 日現在

機関番号：16102

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2012

課題番号：20730367

研究課題名（和文）チームアプローチのための乳幼児期の自閉症スペクトラム行動特性に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Study of the team approach in the support system for infants with Autism Spectrum Disorder

研究代表者

木村 直子（KIMURA NAOKO）

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・講師

研究者番号：80448349

研究成果の概要（和文）：

本研究は、自閉症スペクトラムの子どもたちへの早期発見・早期療育にあたって、地域の保健師・保育士・幼稚園教諭のスムーズな連携によるチームアプローチ実現のためのデータベース構築を目的としている。研究の結果及び成果は以下の3点であった。

（1）乳幼児期に行動特性が出現する自閉症スペクトラムを対象に、早期発見・早期療育のために、地域の専門職によるチームアプローチに必要な自閉症スペクトラムの特性を整理・分類したデータベースの構築した。

（2）職種の異なる専門職（教諭・保育士・保健師）が正確な知識や自閉症スペクトラムの子どもたちへの支援の理念を共有するために、乳幼児期の自閉症スペクトラムの行動特性から、支援の基盤となるようなマニュアルを作成した。

（3）自閉症スペクトラムの子どもたちの早期発見・早期療育を地域レベルで実現するために、地域の保育・教育・福祉現場の専門職（保育士・幼稚園教諭・保健師）が、発達障害に関する正確な共通認識・共通理解を持ち、障害をもつ子どもとその家族に対して専門職によるチームアプローチでサポートする体制を整備した。

研究成果の概要（英文）：

Developmental disorders, especially Autistic Spectrum Disorder have a negative impact on the social life, which includes family, school, community, and workplace, of those with such disorders. Since the effects are serious and persistent, early detection and intervention are crucial. Early detection of Developmental disorders and intervention to meet individual needs may promote the social development and strengthen the unique talents of children with those disorders. It may also prevent the secondary emotional and/or behavioral problems those children may develop. Moreover, the stress of parents/caregivers may decrease as a consequence, which may further prevent psychological challenges and difficulties to the family members of those children.

The purpose of this study described the development of tool for assessing the characteristic behavior of early childhood with Autistic Spectrum Disorders in Japan. Survey results indicated the newly developed checklist as being a valid tool for assessing the characteristic behavior of early childhood with Autistic Spectrum Disorders.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合 計
2008 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
総 計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：自閉症スペクトラム、乳幼児期、地域子育て支援、家族、社会福祉関係

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、自閉症スペクトラムは特に先進国においてその出現率が増加しているといわれており、この 10 年間で、欧米諸国はもとより日本においても、自閉症スペクトラムに関する研究が活発に行われるようになった。

平成 17 年 4 月 1 日より施行されている発達障害者支援法は、①発達障害を早期に発見し、発達支援を行うこと ②学校教育における発達障害者への支援、発達障害者の就労の支援、発達障害者支援センターの指定等について定めること ③発達障害者の自立及び社会参加に資するようその生活全般にわたる支援を図ることなどを掲げている。この法律の施行に基づき、自治体の実施する乳幼児健康診査における発達障害者スクリーニングや、保育・教育・福祉機関における、子どもたちの発達障害の早期発見及び早期療育が大きな課題とされている。

(2) 大都市圏（大阪市）の乳幼児健康診査では、「言葉の遅れ」や「言語発達遅滞」という保健師の所見で発達相談にやってきた乳幼児に、発達障害（自閉症スペクトラム）の症状が見られるケースが多かった。

大阪市都島区家庭児童相談室にて家庭相談員として自閉症スペクトラムの子どもと

その家族に対して個別指導・療育を行ったが、発達障害者支援センター等で発達障害の診断を受けた子どもたちに対して、保育・教育機関において、自閉症スペクトラムの子どもたちが情緒的に安定し、自己の持てる成長や学習の力を発揮できるような「環境」が十分整備できず、早期療育に繋げることが難しいケースもみられた。この要因として、物的・人的資源の不足ということだけでなく、保育・教育機関における発達障害の正確な把握、理解、具体的支援の方法が各機関に浸透しておらず、スムーズな連携が図れない点も大きい問題であった。

(3) 一方、地方都市（鳴門市）の乳幼児健康診査においては、保健師自身が発達障害と知的障害の区別がつかず、乳幼児健康診査において全ての乳幼児に対して、発達障害のスクリーニングを行っている。さらに乳幼児健診にやってくる子どもたちの約半数の子どもたちは発達障害サスペクトとして経過観察が必要であるが、現状では経過観察へのフォロー体制は整備されておらず、早期発見から早期療育へのシステムは皆無である。

さらに徳島市の保育士を対象としたケースカンファレンスから、自閉症スペクトラムの特性を持った子どもたちが多く、自閉症スペクトラムの子どもたちにとって適切な保

育・教育環境が整えられているとはいいがたい現状を把握することができた。

以上の点から、発達障害の子どもたちへの早期発見・早期療育の必要性が国レベルでは声高に言われているが、地域レベルでは早期発見から早期療育へのスムーズな連携はできていない現状がある。

2. 研究の目的

発達障害の子どもたちの早期発見・早期療育を地域レベルで実現するために、地域の保育・教育・福祉現場の専門職（保育士・幼稚園教諭・保健師）が、発達障害に関する正確な共通認識・共通理解を持ち、自閉症スペクトラム児への早期発見・早期療育のためのチームアプローチの必要性を認識し、綿密にディスカッションを行い、適切な支援をできる基盤を構築し、発達障害児及びその家族に対して専門職によるチームアプローチでサポートしていく必要がある。

本研究では、乳幼児期に行動特性が出現する自閉症スペクトラムを対象に、早期発見・早期療育のために、地域の専門職によるチームアプローチに必要な自閉症スペクトラムの特性を整理・分類したデータベースを構築し、支援の基盤となるようなマニュアルを作成することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、自閉症スペクトラムの子どもたちへの早期発見・早期療育にあたって、地域の保健師・保育士・幼稚園教諭のスムーズな連携によるチームアプローチ実現のためのデータベース構築を行うために、具体的な研究の方法は以下の5点であった。

(1) 自閉症スペクトラムの子どもたちの早期発見・早期療育を地域レベルで実現するために、地域の保育・教育・福祉現場の専門

職（保育士・幼稚園教諭・保健師）に対して、ヒアリング及びインタビュー調査を実施し、自閉症スペクトラムの特性への理解度や保育・教育・福祉の支援実態などを把握する。

(2) 自閉症スペクトラムの行動特性及び自閉症スペクトラム児とその家族への支援事例についての研究レビューを含む情報収集を行う。またチームアプローチに関する国内外の情報収集を行う。

(3) 家族、専門職、専門機関へのヒアリング・アンケート調査及び国内外の事例、情報収集、筆者のケース対応経験より乳幼児期の自閉症スペクトラムの行動特性を抽出する。抽出した乳幼児期の自閉症スペクトラムの行動特性を、地域の専門職によるチームアプローチに必要な形式に整理・分類し、データベースを作成する。

(4) 1歳半3歳児健診でのスクリーニングによってデータベースの有用性を検討し、ケースカンファレンスを含む経過観察の体制整備をする。

(5) (1) から (4) の結果を踏まえて、職種の異なる専門職（教諭・保育士・保健師）が正確な知識や自閉症スペクトラムの子どもたちへの支援の理念を共有するために、乳幼児期の自閉症スペクトラムの行動特性から、支援の基盤となるようなマニュアルを作成する。

4. 研究成果

研究の方法に即して、導きだされた成果は、以下の点であった。

(1) 国内外の事例及び情報を収集した。特に自閉症スペクトラムをもつ子どもと家族への支援の先駆的な地域（北海道S市・神奈川県Y市・大阪府S市・京都府K市・鳥取県T市）に積極的にアクセスし、地域の保育・教育・福祉現場の専門職の連携に必要な要素を検討した。

(2) 専門職・専門機関の調査については、本年度は地域の保育・教育・福祉現場の専門職との任意のディスカッションを行い、自閉症スペクトラム児への支援について、特に保健及び福祉分野を中心に地域における実践力の強化を図った。

(3) 幼稚園における自閉症スペクトラムをもつ子どもへの個別指導計画の作成及び実践を通して、教育・保健分野の連携の可能性を模索した。

(4) 家族、専門職、専門機関へのヒアリング・アンケート調査及び国内外の事例、情報収集、筆者のケース対応経験より抽出した乳幼児期の自閉症スペクトラムの行動特性を、「行動」「遊び」「睡眠」「食事」「排泄」「感覚の特異性」等に分類し、「自閉症スペクトラムの行動マーカー」を作成した。

(5) 4年間の研究成果の集大成として、職種の異なる専門職（教諭・保育士・保健師）が正確な知識や自閉症スペクトラムの子どもたちへの支援の理念を共有するために、乳幼児期の自閉症スペクトラムの行動特性から、支援の基盤となるようなマニュアルを作成した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

①木村直子、1歳半児の遊びの内容と養育者との相互交渉に関する一考察—幼児健康診査における自由遊び場面の分析から—、鳴門教育大学研究紀要、28、285-293、2013、査読有

②木村直子、幼児健康診査における「発達障害」スクリーニングの手法、鳴門教育大学研究紀要、24、13-19、2009 査読有

③木村直子、幼稚園における発達障害をもつ子どもへの個別の指導計画作成に関する実践研究、鳴門教育大学授業実践研究：学部の授業改善をめざして 鳴門教育大学編、7、19-25頁、2008、査読有

〔学会発表〕(計8件)

①木村直子、大学における子育て支援活動の役割、全国保育士養成協議会全国セミナー、2012年09月07日～2012年09月08日、京都文教大学

②木村直子、1歳半児の遊びの内容と養育者との相互交渉に関する一考察—幼児健康診査における自由遊び場面の分析から—、日本社会病理学会、2011年10月2日、駒澤大学

③木村直子、幼児期の子どもたちの「居場所」に関する研究—幼稚園の絵本の部屋における行動観察から—、日本インテリア学会2009年大会、2009年10月25日、金沢学院大学

④木村直子、幼児健康診査における自閉症スペクトラムに関するスクリーニングの意義—1歳半健診及び3歳児健診における全数スクリーニングの実際—、日本児童青年精神医学会、2009年10月1日、京都国際会館

⑤佐藤智香、木村直子、小学校への移行における適応とレジリエンス、日本教育心理学会第51回大会、2009年9月19日、静岡大学静岡キャンパス

⑥佐藤智香、木村直子、小学校1年生用レジリエンス尺度作成に関する研究、日本家族心理学会第26回全国大会、2009年8月22日、大阪市立大学

⑦木村直子、自閉症スペクトラムにある幼児のグループワーク実践のための環境構成に関する研究—部屋の構造化を中心に—、日本インテリア学会2008年大会、2008年9月27日、九州大学

⑧木村直子、「発達障害」をもった子どもたちへのチームアプローチの実践に関する研究—N市の幼児健康診査における全数スクリーニングを通して—、日本福祉のまちづくり学会 第11回全国大会、2008年9月1日、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木村 直子 (KIMURA NAOKO)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・講師

研究者番号：80448349